



館報 まつかわ

松川町公民館報
第654号
平成30年4月15日

町の川 ①
野岩川(古町東部)

「ぶ調べ」コンサート

ご 紹 介



浦野 純 子 (ソプラノ)

昭和音楽大学声楽科卒業、同専攻科修了。イタリア、アッシジにて故カンプ・ガツリアーニの薫陶を受ける。
ソプラノ歌手として様々な演奏活動を行う他、自身の不調から始めたヨガ、呼吸法、アレクサンダー・テクニークなどを用いた体と心にアプローチするボイストレーナーとしても活動を広げている。



日下部 かおり (ピアノ)

国立音楽大学器楽科(ピアノ専攻)卒業。
ピアノをクヴィータ・ピリンスカ、フランティシエク・マリール、久保田恵子(国立音楽大学名誉教授)各氏に師事。多くのコンサートに出演する中、チェコの名門弦楽四重奏団《シュターミッツ・カルテット》とシリーズで行なっている演奏会は高い評価を得ている。

4人の 素晴らしい演奏

3月9日(金)13時30分
からえみりあホールにて
楽しい芸能「春を呼ぶ調
べコンサート」が声楽の
浦野純子さん、ピアノの
日下部かおりさん、バイ
オリンの田中和美さん、
チェロの飯島瀬里香さん
をお迎えして開催されま
した。

当日は150人を超える町民の皆様が足を運ばれ当初の予想を大幅に上回る人入りで急遽パンフレットを増刷するほどでした。そんな熱気の中コンサートは2部構成で行われ、1部はクラシックなどのしつかりと聞かせる曲、2部では会場皆で歌う歌唱曲やドラマの主題歌など耳なじみのある曲で構成され、皆さんなかなか生で聞くことのできないプロの演奏に体全体でリズムを取ったり目を閉じて聞きいたりしていました。



楽しい芸能

ソプラノの歌声と
ピアノ・バイオリン・チェロの
三重奏

「春を呼

出演者

飯島 瀬里香 (チェロ)

桐朋学園大学音楽学部卒業。同大学研究科修了。
チェロを宮城健、北本秀樹の各氏に師事。マリオ・ブルネロのマスタークラスを受講。
第24回日本クラシック音楽コンクール全国大会3位入賞。
現在、レコーディングやソロ・室内楽等演奏活動のかたわら東京と伊那でチェロの指導に当たっている。



田中和美 (バイオリン)

4才よりスズキメソッドにてバイオリンを始める。
国立音楽大学音楽学部器楽科バイオリン専攻卒業。
アンサンブル活動はアエラトリオ、BREZZINA、ミールカレットト、ボウタトリオのメンバーとして様々な楽器とコラボ演奏をしている。また、ブライダル、病院、施設等で演奏を行う。伊那楽器講師。



来場者の声

♪「ステージがワンフロアで親しみを感じ、一体感を覚えました。ワンフロアでの演奏は初めてなので、感動です。照明などなく素の演奏はやはり心に響きます。良い体験をさせていただきました」

♪「ピアノ三重奏曲、チャルダッシュ、ビバルディが見た日本の四季、良かったです。春よ来い、糸、花は咲く、などは私の好きな曲ですが、鈴のような素敵な声で歌って頂けて最高でした。チェロの音色がとても胸に響きました」



ました」

♪「バイオリン、チェロ、ピアノ、ソプラノのそれぞれが物語をお話してくれているようで、とてもゆったりとくつろいで午後のひと時を楽しませていただきました。身近なところでこんな素敵な演奏を聴けるなんて最高です」

ました」

♪「久しぶりに『生』の演奏が聞かれて心があらわれる気持ちでした。花は咲くは、心にしみじみとつたわり、目頭が熱くなりました」
♪「こんな優しい素敵な演奏が聞かれて、声をかけてくれた友人に感謝です。次回の計画を待っています」
♪「高齢になると、どこへも出歩くことができないので、時々こうした音楽会を持つてほしい」

♪「プロの演奏を無料で聞けて大変良い機会でした。お年寄りが楽しそうで良いと思いました」



公民館自主企画講座

松川少年少女合唱団
ワン・ヴォイス

2・3面特集記事のコンサー
トで素晴らしい歌声を披露さ
れた浦野さん。公民館の自主
企画講座を利用して、少年少
女合唱団を設立しました。設
立にあたっての想いなどを伺
いました。

「ワン・ヴォイス
松川少年少女合唱団」
設立にあたり

4月10日火曜5時〜7時、
ワン・ヴォイス松川少年少女
合唱団の練習がえみりあ2階
ホールにていよいよ始まりま
す。

団名のワン・ヴォイスには、
かけがえのない一つの声、そ
れらが集まった一つの響き、
その響きが波及し何かを動か
す一つの原動力等々、私を含
め3人の講師の団への想いが
込められています。

この合唱団の特徴は大きく
分けて3つあげられます。

1つ目は、練習の導入にコ
ダイシステムというわらべ
うたによる音楽教育を取り入
れていることです。これは寺

澤美佐子先生と山崎弘子先生
が担当します。体験プレイベ
ントでも大好評でしたが、大
人も子どもも楽しめる手遊び
歌や、わらべうたを使った簡
単なゲームなどで、様々な心
持ちで会場に集まった子ども
達の心と体をほっこり温かく
ウォーミングアップします。



良い姿勢で良い発声

2つ目は、ヨガ、ピラティ
ス、呼吸法を用いた専門的な
ヴォイストレーニングで、体

の仕組みに沿った良い発声、
良い姿勢を身につけること
です。子ども達にヨガ?と思わ
れるかもしれませんが、昨今
の子どもの達は背骨、骨盤の歪
みが大変いと言われています。
美しい声が出るのはもちろん

ですが集中力や持久力のアッ
プ、自身への気づき、ありの
ままの自分を認めることで自
信を持つことにも繋がります。

3つ目は、もちろん合唱を
とことんまで楽しめること
です。講師は私の他に埼玉県か
ら堀内千鶴子先生が来てくだ
さいます。ソリストとしても、
合唱指導者としても定評と実
力ある講師が、本物の音楽の
素晴らしさ、楽しさを全力で
教えます。みんなの声が一つ
になり美しいハーモニーがう
まれた時のゾクゾクとした
感動は、何にも代えがたい体
験となることでしょう。そし
てそれは一人ではできない、
仲間があつてこそその喜びなの
です。そんな合唱の素晴らし
さを是非体験していただき、
団員一人一人にとつてのワン
・ヴォイスの意味をここで見
つけてもらえたら幸せです。

対象年齢は小学1年生〜高
校3年生までですが、ウォー
ミングアップのわらべうたに
は保育園児の皆さんにも参加
していただきたいです。
皆さんのご入団を心よりお
待ちしています
代表 浦野純子



身体を動かしながらボイストレーニング

松川町囲碁同好会
春の囲碁大会

平成30年3月17日(土)松川
町囲碁同好会による恒例の春
の囲碁大会が総勢15名の参加
の下で午前10時より夕方まで
「えみりあ」(松川町中央公民
館)に於いて開催されました。

大会には松川町だけでなく
飯田市、高森町、豊丘村、中
川村からの囲碁好事家の方々
の参加がありました。初めて
参加された方も幾人かおられ
ましたが囲碁をたしなむ人
には垣根はありません。直ぐに
溶け込んでおられました。

和気あいあいの中にあつて
も試合は別物。優勝の栄誉を
目指しての熱い戦いが繰り広

げられました。
その中で豊丘村の久保田和
博氏が4勝1敗の好成績で見
事優勝されました。
大会成績は以下の通りでし
た。

優勝	久保田和博	4勝1敗
準優勝	小松 幸志	4勝1敗
3位	井澤 兼嗣	4勝1敗
4位	松下 正博	3勝2敗
5位	尾畑 紘	3勝2敗

記：松川町囲碁同好会田中



松川町囲碁同好会は毎月の
例会と年4回の大会を開催し
ております。

囲碁に興味ある方は下記迄
ご連絡ください。
松川町囲碁同好会事務局
☎3615223



こちらは野岩川（古町）

松川町といえば豊かな自然が第一に挙げられるほど緑も水もきれいです。とはいえ、川の水はそのまま飲めるほどではありませんよ。では、松川町の川の水はどのくらいの水質なのでしょうか。公民館の地域を知る講座では、町内を流れる川の水質を自分で測定する体験を行いました。全国水の相談所代表の桂川雅信氏を講師に迎え、小学生から大人まで14人が参加しました。

まつかわの水質をのぞく

地域を知る講座

3月19日(月)開催



小学生も検査を体験

3か所で測定

今回は、古町の相の沢、野岩川、そして生田の福沢川の水を調べてみました。

水質を調べるには、専用の簡易キットを使用しました。水質といってもいろいろありますが、今回は「硝酸態窒素」と「COD（化学的酸素要求量）」の値を調べてみました。これらの検査で水の中の「有機物」の量を知ることができ、有機物が多いほど水が汚れていることになります。川の水をバケツにくみ、参

目に見えない汚れ

加者一人ひとりがキットを使って調べます。検査容器に水を入れると、汚れ具合によって水の色が変わり、どのくらい汚れているのかがわかります。

水は、にごっていけば汚れていることがわかります。しかし、町内の川は見た目ではとてもきれいです。それでも検査をすると、汚れていることがわかりました。下水道整備もすすみ、川に家庭排水がそのまま流れることは少なくなりましたが、それでも検査で汚れが出るというところは、何か汚れの原因になるものがあることを示しています。また、今回の検査ではわか



簡易検査キット

松川町には、町内の川の水質を調べ続けているみなさんがいます。青年学級水質班のみなさんです。昭和50年から調査をはじめ40年以上もたっています。当時は下水道もなく、家庭排水などが川の水質にどのくらい影響しているのか調べることに。そして大切な水を守りたいという思いで検査をはじめ、今も続けられています。今回の地域を知る講座も、青年学級水質班のみなさんをならつてのものです。

調べ続けて40年余

知らない有機物も存在し、それも川の汚れの原因となっています。それは人が作り出した化学物質（合成洗剤など）です。下水処理場を通して分解されない成分があるため、そのまま川へ流れているといま

知ることの大切さ

今回の講座は、汚れの程度が多い・少ないということや議論するためのものではありません。普段何気なく見ている川は一見きれいにみえますが、その実態を知ること。そして、興味を持つことで川の少しの変化でも感じられるようになってもらいたいという思いがあります。参加者の中には「目に見えなくても汚れていることがわかった。普段気にしていなかったが、気づけたことがよかった」と感想を述べる方もいました。よく見れば、今でも泡の立つた水が川を流れていることがありますが、松川町の川が本当の清流になるために、私たちができることは何なのでしょうか…



桂川さん(左)の話を聞きながら

スポーツ

第44回 松川町矚矚弓道大会

3月4日に第44回松川町矚矚弓道大会が開催されました。結果は次の通り。

- 団体戦**
- 優勝 田畑 隆夫 (飯田市)
 - 唐沢 徳 (豊丘村)
 - 菅沼 昭彦 (豊丘村)
 - 準優勝 福島 文雄 (高森町)
 - 齋藤 実 (松川町)
- 個人戦**
- 優勝 菅沼 昭彦 (豊丘村)
 - 準優勝 木村 匡房 (飯田市)
 - 第3位 小松 哲 (飯田市)
 - 第4位 大藏 壽春 (松川町)
 - 第5位 笠原 武明 (松川町)
 - 菅沼 昭彦 (豊丘村)

弓道教室のお知らせ

初心者歓迎！道具もお貸しします。何歳からでも始められ、男女の区別もなく、また高齢になっても続けられます。対象者 高校生以上の町内在

日時 5月15日(火)より
毎週火・金曜日
19:00〜2時間程度
20回にて終了予定

場所 松川町弓道場

費用 スポーツ保険加入代
申し込み先 松川中央公民館

締切は5月14日(月)

第26回松川町混合ダブルス バドミントン大会

3月11日に第26回松川町混合ダブルスバドミントン大会が開催されました。結果は次の通り。

がんばるブロック

優勝 奥平将史・松下睦規

準優勝 岡本誠也・下村ひかる

たのしみブロック

優勝 細田 勲・武松京子

準優勝 櫻井 誠・佐藤千佳

第1講座

6月30日(土) 13:00~15:00

いつまでも現役！ 自分の足で歩き続けるための秘策

■講師

久野 譜也

筑波大学大学院
人間総合科学研究科教授

「筋トレをする人が10年後、20年後になっても老けない46の理由」他著書多数。

第2講座

8月25日(土) 13:00~15:00

温暖化と異常気象(仮題)

■講師

村山 貢司

一般財団法人気象業務支援センター
専任主任技師

1987年から2007年3月までNHKの気象解説を担当。

「体調管理は天気予報で」等著書多数。

まつかわ大学第13期生 募集!!

◆入学金:年間1,500円

(受講登録は松川町民のみ)

◆締切:5月31日(木)

◆問合せ:中央公民館

36-2622

第3講座

12月15日(土)
13:00~15:00

朗読の楽しさ 朗読の魅力

■講師

青木 裕子

元NHKアナウンサー
軽井沢朗読館館長

元NHKエグゼクティブアナウンサー。朗読番組「軽井沢散歩」(FM軽井沢)放送中!



第4講座

2月9日(土)
13:00~15:00

1ミリでも進める、 子どもの貧困対策 ~私たちの社会は、私たちの手で 変えて行ける~

■講師 湯浅 誠

社会活動家・法政大学現代福祉学部教授

NHK第一ラジオ「マイあさラジオ」他レギュラーコメンテーターを務め、「ヒーローを待っていても世界は変わらない」等著書多数。



地元の歴史を語り継ぐ 片桐宿保存会会長 大澤和子さん

一般社団法人片桐宿保存会を立ち上げた大澤和子さん。片桐宿保存会は、松川町の片桐宿の遺跡、史料の保全と飯伊地方全体の活性化を目的として活動しています。

3月に第2回のセミナーが開催されました。今回は「飯島陣屋と伊那県」というテーマで飯島町歴史民俗資料館館長の丸山さんをお招きし、お話を聞きしました。飯島陣屋は江戸幕府のお代官様の役所です。陣屋はもともと片桐陣屋で、片桐陣屋が古くなり使用に耐えられなくなり飯島へ移りました。江戸時代が終わると、江戸幕府の直轄領だった場所が明治政府の直轄県となり「伊那県」が創設され、飯島陣屋はその県庁にもなりました。伊那県は3年ほどで廃藩置県などにより終わってしまっただけです。馴染みのない言葉もあり少し難しい内容でしたが、長野県の歴史を学ぶとても貴重な機会になりました。

セミナーには町外から聞きに来てくれる方もおり、たくさんの方が集まりました。30年



度にもセミナーを開催して頂く予定とのことなので興味がある方はぜひご参加ください。

大澤さんは「片桐宿の問屋や地元の資料を保存し、文化歴史を後世に語り継いでいきたい。ご先祖様の生活を知りたい。」と語ってくださいました。地元の歴史も後世へ語りついでいかなければいけません。このように歴史の継承に尽力する大澤さんの活動にとっても興味がありました。大澤さんは片桐宿にある問屋を管理されており、今後問屋を公開する機会もあるそうなので楽しみですね。

松川町今昔

資料館だより
◆第22回◆
「明治初期の合併・分村」

明治になって全国各地で江戸時代にあつた村が合併して、少し大きな村になりました。松川町の例をあげてみますと、松川町になる前の大島村は、江戸時代には名子村・上新井村・古町村の三つの村でした。治めている支配者は幕府・高須藩とちがっていましたが、日ごろ「大島三ヶ村」と呼ばれ、互いに協力し合っていました。明治4年(1871)の廃藩置県により伊那郡は筑摩県に入るようになりました。明治7年3月、名子村・上新井村・古町村は、それまでの付き合いや土地の交じり合っていることから合併をした

と、筑摩県権令 永山盛輝に「合併願書」を出したのでした。ところが、明治8年1月筑摩県は県内各地の村々の合併を強制的に進め、大島三ヶ村は山吹五ヶ村(山吹・北駒場・北新田・上平・竜口)と合併して「里見村」になりました。山吹の村々とは、江戸時代初めから山争いや境争いを繰り返してきました。筑摩県は明治になってできた区のみとまりを一つの村にしたかったのですが、

当時の土地改革である地租改正も含め、住んでいる人々は気持ちが悪く感じました。そこで、六年後の明治14年(1881)5月に、里見村の人々は、長野県権令や下伊那郡長に「分村願」を出しました。そこに書かれているのは、大島三ヶ村と山吹五ヶ村の土地利用条件のちがいや地租改正を同一にやることのむずかしさです。この願いが受け入れられたのか、

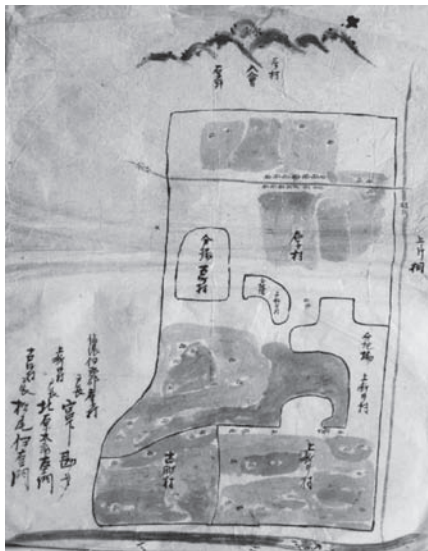
10月には元大島村・大島村・山吹村の三つの村に分かれました。元大島村は名子里分(現名子区)・上新井・古町、大島村は名子上分(現上大島区)です。



そして明治21年(1888)市制・町村制が全国でしかれ、大島村と元大島村は合併して大島村となりました。かつて合併したいと願った「大島三ヶ村」は、一つの村になりました。そして松川町になるまで続きました。

松川町資料館

伊坪 達郎



声

上大島文化芸能祭

上大島地区公民館主事 今村俊男

3月3日から4日にかけてクラブ発表と文化芸能祭が行われました。

クラブの展示では生花や俳句、短歌等が飾られ会場を訪れた皆さんも真剣に見入っていました。また廊下には大島保育園の園児の絵が並べられ会場を賑やかにしていました。節分やリース作りといった公民館活動の様子も写真で紹介されました。

文化芸能祭は少年少女太鼓



大島保育園の園児の皆さんによるダンス

クラブの太鼓で幕を開けました。間近で聴く太鼓はとても迫力がありました。続いては大島保育園の園児によるダンスがあり、可愛らしい踊りを披露してくれました。今回初参加の律心会の皆さんは空手の演武を行いました。保育園の園児の型や、板割りやブロック割り等を披露してくれました。ミニパッションの皆さんはキレのあるダンスを披露して頂き、レジェンダ・デ・松川の皆さんは生演奏によるフラメンコを披露してくれま

した。休憩時間には毎年恒例となっている豚汁を全員で食べました。第2部は楽人の皆さんによる太鼓の演奏があり、ひよつとこやおかめが会場を盛り上げていました。松尾さんは伝統的な武田節を踊ってくれました。"わくわく"によるサイエンスショーは身近な物を使い科学を体験しました。参加した子ども達も楽しそうに実験を行っていました。本年度は初出演の皆さんも

考になりました。

参加をお待ちしております。

バーンバーンバーン
ボランティアスタッフを募集しています!!

大会までの準備や大会当日の運営にご協力いただけるボランティアスタッフを募集しています。

お待ちいたしております。

(大会事務局・町民体育館内) 電話48-6713

ボランティアの内容は、PR活動、予告看板立て、コースの草刈り、前日の準備、当日の運営と片付け等です。ご都合のつく時間で結構です、協力をいただける方ご連絡を

4月8日(日)山梨県南アルプス市の桃源郷マラソンにて、ランナーの募集チラシを配布する「PR活動」を実行委員6人で行ってきました。第16回と歴史のある大会で大変参



チラシを配る実行委員 (南アルプス市)



生花が会場を彩る

2022年

同じ「言葉」を使うのに、話すと書くのでは違いがあっておもしろいものです。話しはその場で過ぎていきますが、文はずっと残るからでしょうか? ところで「話す」ということは生活の中で何気なく行なっていることなので「みんな同じようにしゃべれる」という感覚に、ついなつてしまいがちです。人はみんな違うと頭ではわかっていても、会話が返事が遅かったりすると「早く返事して!」なんて思ったりしたことありませんか? 会話が苦手な人もいます(…ここに)。こんなことを書くとは何かあったんじゃないかと思われるかもしれません。でも最近増えてきたAI(人工知能)には、すでに越されている気がします。そのうち、この館報にもAIが考えた文が掲載される日がくるかも!?

光澤 正之

公民館報
「まっかわ」
第 654 号
平成30年4月15日

発行所 松川町公民館
責任者 小 沢 誠
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)

再生紙を使用しています。